

淀川区区政会議 第2回教育・子育て部会

日 時：令和3年3月10日（水）

午後6時43分～午後7時27分

場 所：淀川区役所第5会議室

○松尾政策企画課長代理

こんばんは。こちらの部会を担当させていただきます、松尾と申します。よろしく
お願いします。先ほども説明ありましたように、皆様からこれまでいろんな意見頂い
てたんですが、その意見を参考にしながら、令和3年度の運営方針案の方を作成しま
したので、ちょっと御覧いただいて、また皆さんから意見頂きたいと思います。事前
にアンケートの方も取らせていただいていたんですけどね。数値目標の設定根拠がちょ
っとよく分からないので、それも説明してほしいなっていう意見もございましたので
ね、今日は担当のほうから、個別の事業の内容と、あとその数値目標の設定根拠につ
いても一緒に説明させていただきますので、よろしくお願いします。協議の時間なん
ですけど、一応7時30分ぐらいを目標にちょっといったん終わらせていただいて、
5分休憩取らせていただいて、全体会議の方に移っていきたいと思います。そのとき
に申し訳ないんですが、どなたか代表で板書をちょっとさせていただきますので、そ
れ見ながらで結構ですので、またどなたかに発表いただきたいと思いますので、よろ
しくお願いします。そうしましたら、先決めときます。

○川合委員

初めから決めておいていただいたほうが、確かに。

○松尾政策企画課長代理

先決めといたほうが安心します。じゃあ、どなたか発表していただける方。

○川合委員

コロナボケをしてるので、ちょっと練られない。すみません。女性陣。

○松尾政策企画課長代理

どなたか。

○川合委員

お願いしていいですか。

○松尾政策企画課長代理

板書させていただきますので、聞きながらでも結構です。

○川合委員

よろしくお願いします。

○松尾政策企画課長代理

じゃあすみません。よろしくお願いします。

○川合委員

安心して聞ける。

○松尾政策企画課長代理

そうしましたら、まず学校教育支援の方から説明をさせていただきます。で、学校教育支援と児童虐待、ごめんなさいね、子育て支援のほうですね、経営課題2-2の「重大な児童虐待ゼロ」に向けた子育て支援を一緒にしないで、個別に議論を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。じゃあまず、よろしく申し上げます。

○教育支援担当課長

教育支援担当課長の井上と申します。よろしくお願いたします。座らせてもらっていいですか。私のほうで9ページ、10ページ、11ページの3つの区分についてお話しさせていただきます。まず9ページの2の1の1、課題学習の推進（ヨドジュク）でございます。御存知かと思いますが、区内在住の中学生を対象に、3つの中学校の施設、会議室や多目的室を活用いたしまして、子どもたち、生徒それぞれの習熟

度に合わせた課外授業を実施し、学習習慣の形成、家庭学習の習慣化などを旨とする事業でございます。子どもたちには、入塾後、1年間の内2回学力検証、テストを実施しておりまして、入塾して間もなく、子どもたちそれぞれの学習到達度はどれぐらいであるのかどうか、また年度末にもそれは実施されまして、そのデータを比較し上昇した生徒の割合、目標のひとつとしております。この事業は、「大阪市塾代助成事業」の対象でもございます。所得制限ありますけれども、多くのご家庭が該当するであろう、塾代助成事業を実施しております。淀川区では、毎年ヨドジユクの事業者が変わるといのはどうなんだろうっていう意見がありまして、暫定3年間、同じ事業者が提供していこうということで、来年度以降令和3.4.5年の3年間なんですけれども、今回事業者が決定いたしまして、2月に区役所のホームページに記載がありますが、聞いたことあるかと思いますが、トライグループです。現在もトライグループさんなんですけれども、3年度からもトライグループさんに3年間継続して実施。契約自体は単年度なんですけど、3年続けてというイメージで思っていたらいいと思います。下の方にあります数値目標、その1、参加生徒アンケートで、「週5日以上自宅学習に取り組む」という回答する割合、これが目標値30%以上。2つ目が、先ほど申し上げました学力到達度テスト。これ2回目が、上昇した生徒の割合。60%以上っていう目標としております。令和元年度、同じ指標で調査したんですけれども、令和元年度の結果が、29.7%と、ギリギリちょっと到達しなかったところでございます。引き続き、目標値は30%を目指していきたいと思っております。もう一つの学力検査結果についてですが、これが今年度、殊のほかよくですね、76.2%の子どもが上昇したということで、本来でしたら70%目標にするべきかなと思うんですけど、毎年対象の生徒が、全員変わるわけじゃないんですけど、学年進行によってやっぱり変わってきますので、分母が変わってくるということで、あまりちょっと高い目標値よりかは安定した評価を求めたいという考え方で、同じ60%という設定をしております。

続きまして、10ページでございます。こちらは、同じ課外学習なんですけど、小学生を対象にしたものでございます。いわゆる放課後に児童に残っていただいて、地域の方々から、学習支援を受けてもらうというものでございます。こちらでも学習習慣の定着というものを目指しております。その規模なんですけども、お手伝いしていただく地域の方、こちらからもお願いはしてるんですけども、なかなか安定的にどの学校も同じ状況ではございませんでして、今現在17小学校中12小学校でできている状況です。規模としては360人の子どもたちを対象としております。実施できていないところに関しては、個別に学校に相談に行きながら、できれば、全部の学校でできるような体制をつくっていかれたらと思っております。次年度につきましてですが、今までは、放課後、大体時間で言うと、午後2時から4時ぐらいの時間が中心なんですけども、その時間帯に地域の方に来ていただいて、子どもたちに寄り添って、基本的には宿題をやるとか、そんなところからスタートしてるんですけど、やはり授業中に集中できない子どもが何人かぼつぼつとおまして、その子どもたちに指導する方が同じ方がつくほうが、きっと子どもたちも安心するだろうという考えで、午前中の授業時間から寄り添っていただけないかというお願いをしているところでございます。午後だけの取り組みでなく、授業中から引き続いた取り組みを来年度からチャレンジしていきたいと考えております。数値目標でございますが、一つ目言いましたように、事業規模としては360人を目指しております。2つ目ですけども、子どもたちに以前より授業が分かりやすくなったかという設問も含めたアンケートを実施しております。これに回答した参加児童が60%、この数字の根拠でございますが、実施校が12校であるというところ、どうしてもちょっと増えないところでございまして、本当はもう一つ上にならなければあかんのですけども、現実的に届くところがここかなと。そうして、令和元年度に、アンケートで以前より授業が分かりやすくなったと答えた者が実は70.3%ありました。先ほど言いましたように、分母が、子どもたちがどうしても学年進行でこれからがらっと変わってしまいますんで、60%を安定的

な目標にしていきたいと考えております。

次の11ページの学力向上支援、淀川漢字名人育成計画、いわゆる漢検を、学校で受験させているという事業です。中学生に関しては、学校が指定する学年、中1か中2か、大体そうなんですけれど、小学校に関しては、一定の学年でやっていこうということで、それぞれの校長会でやり方を決めていきました。小学校は共通して5年生でやっていくこと、ということで、この費用としてはその受検料を負担するという形でやっています。

実際の受検は、学校によって設定する日が違いますので、ある日に文部科学省の学力テストのように共通してやるというものではないので、2学期にやったり3学期にやったりと、学校によってその点、違いはございます。

で、時間なんですけれども、このテストの受検において、いわゆる担当の先生が、基本的に教頭先生が多いんですけれども、この手続をできるだけ簡単にできるマニュアルのようなものであるとか、注意ポイントを整理したものを教員にお配りしております。これ以上、できるだけ教員さんの負担を増やすことのないような事業であるべきと思いますので、そういった工夫を今年度から実施しております。

これについての数値目標でございますが、この漢検の受検をきっかけに自宅での学習、家庭学習をする時間が増えましたと答えた子どもの数、生徒の数の目標値としては70%を目標としておりますが、元年度の結果としては60.2%と、10ポイントほど届きませんでした。これについても引き続き70%を目標として、めざしてやっていきたいと思っております。

私からは以上でございます。

○松尾政策企画課長代理

ありがとうございました。そうしましたらまず、この学校教育支援についてのちょっと御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

3つの事業とも、ちょっと継続してずっとされている事業ですので、この間もいろ

いろ説明はお聞きになっていらっしゃると思うんですけども、新たに何か感づかれたこととか御意見ございませんでしょうか。目標については。

どうぞ、中道さん。

○中道委員

課外学習の推進、小学生の補習事業、現在は12校で360人が受けているんですか。

○井上教育支援担当課長

360人の子どもが毎回来ているわけじゃなくて、対象としている学年、学校が、手を挙げている。子どもの学年層とかありますので。

○中道委員

これ、手を挙げている人数、学校数で、その人数が360人で、この目標値が360人以上というのは、12校以上増えないんですか。

○井上教育支援担当課長

はい、ちょっと聞こえないです。

○松尾政策企画課長代理

実施しているのが上段。

○中道委員

17校中、12校、全校できないですか。

○井上教育支援担当課長

ご協力いただける方を探してるんですけども、やはり今のところおられないという学校が幾つかあります。

○中道委員

学校が悪いということ。

○井上教育支援担当課長

学校が悪いということではなく、協力してくれる方が見つからない。

○中道委員

地域の。

○井上教育支援担当課長

いわゆる指導員の方が。

○中道委員

あー、そういう。それを増やすという目標ですか。

○井上教育支援担当課長

そこも増やしたいんですけど。なかなか簡単に、じゃあ頑張りますというものではないので、いろんな地域の中で、機会を通じて、こういう事業の説明をしていかなあかんのかなとは思っておるんですけども、なかなかちょっと増えていかない状況です。やっぱり平日の午後、午前もですけども、午後の時間帯に安定してその曜日に時間が空いている方というのはなかなか見つからないんですよ。月にこの日だけ行きますよという方はおられるかもしれんですけども、やはり学校と言いましょか、担任の先生からしたら、この曜日のこの時間はこういうプログラムを組むというふうなので、子どもたちのリズムも決まってくるので、単発でというのはちょっと受けにくいところもある、その辺の学校とのマッチング、簡単に書けないところはちょっとそういうシステムになっているところもあると。

○中道委員

協力する方は無償ですか。

○井上教育支援担当課長

報償金払ってます。

○中道委員

報償金払っているの。

○井上教育支援担当課長

はい。

○中道委員

午前中から取り組むというのは、呼びかけている。

○井上教育支援担当課長

はい。

○中道委員

で、割とその反応があるんですか。

○井上教育支援担当課長

いえ、実施している学校の割合でいうと、やりたい学校は多いんですよ。やりたい学校は多いんですけども、やっぱり今来てくれている人が午前中も来てくれるかというのと、なかなかそこで多くの方が来られる状況にはやっぱりなっていないので。

○中道委員

そうですね。でもいいと思うんですよね、授業中からというのは。やっぱりいろんな子どもさんがいて、やっぱり出歩いている子とか、授業に集中できない子って結構いるみたいなので、何かその子のための何かね、部屋というか、あったらいいなと思うので、はい。どこまでいけてるのかなと思って、まだ今からなんですね。

○井上教育支援担当課長

これからですね、はい。

でも何校か、可能性のあるところは聞いていますので、全くゼロじゃないんで、その取組を午前中授業でこんな取組をしたいという例ができると、ほかの学校にも宣伝的に見えらると思うので、まずはスタートして、その取組を広げていくような、アレンジできるようにまたできたらいいと思っています。

○中道委員

はい、分かりました。

○米田委員

いいですか。すみません、その件なんですけど、前もこの会議でお話しさせてもら

ったと思うんですけど、新高小学校に関しては去年はされていないみたいで、この12校の中に入ってないと思うんです。で、3年前にうちの娘が大学1年生のときに、ちょっと前期のときだけはちょっと授業の関係上入れるということで、手伝わせていただいたことがあったんですけど、このときは、新高に関しては週2回で、もう前もって登録している子どもの4年生、5年生の担当だったんです。結局、そのときも話したのは学校の方針でもあったと思うんですけど、プリントをして宿題をして帰るということで、別にその分からないことを補助的な感じではなかったんですよね。なので、ちょっと今日お話を聞くと、学力向上のためにそこにやっぱり、きっと区役所のほうからこういうふうな提案はされたとしても、学校単位でそれをどんなふうに解釈して受け取っているかの違いだと思うんですよね。

○井上教育支援担当課長

はい。

○米田委員

今おっしゃった、来ていただいたことは、私も1回、娘が行けないときに補助で行かせてもらったときに、そんな感じじゃなかったですよ。ただ単に、1時間の間を子どもたちが宿題をして、宿題ができている子はプリントをしてという感じだったので、分からない子は聞きにおいでという、長年されていた方はそういうことをされていた方は、聞いたらその子どもが言ってくるという感じだったんですけれども、全体的にはそうじゃなかったなというのはあって、常に感じたのは新高小のコロナの問題もあったので、ちょっとそれはできなかったということは校長のほうからそのお話は聞いたんです。やっぱり、入っていく人に関してもやはり、その学校に子どもがいる親御さんは、やっぱりそういう守秘義務のこととかいろんな問題があるから、やはりちょっと離れた人というのがあったりとか、やっぱり学生のほうがいいんじゃないかって大学生に対して言って、うちの娘なんかもすごく楽しく行かせてもらったんですけど、やはり授業があるから、前期では行けても後期では行けないという感じがあって、

なかなかそこら辺は難しかったというのが、気持ちはあっても今の大学生なんか、やっぱり教えてあげたりとかそこに一緒に関わりたいという子どもたちはいると思うんです。でもなかなかそういう学校との兼ね合いでできないというのは、ちょっと課題なのかなというのはすごい感じてて。

○井上教育支援担当課長

そうですね、一般のクラスと違って、積極的に来てくれる、分からないから学びに来てくれる子どももおれば、お父さん、お母さんに宿題をやるときやと言われて来るような形で、そこに宿題だけをしにくる子どももおるでしょうし、クラスの人数もぐっと少ないです。

○米田委員

そうですね、十五、六名。

○井上教育支援担当課長

子どもたちの集まる、色合いがいろいろできてくると思うんですよね。何人かが質問するような空気になっていたら、すごい積極的に質問が出るようなところもあるでしょうけれども、ほっとするようになっていると静かな教室になるでしょうし、なかなかこちらで描くようなものには簡単にはならないと思いますし、この姿、担任も当然見てますから、担任がその方向じゃないよって言うんやったら、それはそれでシフトを変えていくと思いますし、これでもいいと思うならば、担任もしっかりと学校の感じ方を見てやっているということですから、おっしゃるようないろんなパターンができてしまって、本当にその宿題だけやって帰るねんっていうところも確かにゼロではないんです。それだけではあかんのかなと思うんですけれども、まずはその机に向かう。学校の先生のその時間割以外の時間帯に問題集を見る、テストも見る、そういう習慣というのを小さい年齢のときから、低学年のときからそういうのを身につけておかないと、中学に行くとどんどんまた苦勞することになるので、だから、小学生の補習というのはそういったところですね。すぐに成績が上がるとかじゃなくて、やっ

ぱり前を向いて机に向かってというようなことの、その意識づけをできるようなことなのかなと。だから、テストして成績を上げるとかいうのをやっていないんですよ。皆さんおっしゃっている、それが本当は理想です。そのほうを目指さなあかんと思いますけれども、ぼちぼちさせてもらっている感じですね。

○米田委員

じゃあ、もう一点だけ、ヨドジユクの件なんですけれど、以前、私ここで、はっきりと発言させてもらって、新高に関しては新高の園長さん、社協、会長とかも、もしも場所がないのであれば提供しますということの確認をしていただいたと思うんですけども、すごいそういうことに関しては、前向きな本当に3団体ではあるんですけど、そのときに連長のほうから、やっぱり人数がそこまで集まらなかったらとか、そういう予算のこととかいろいろ聞かれたこと、お聞きはしたんです。なので、これまた同じように上げてたんですけど、これを増やすという場所、増やすという。

○井上教育支援担当課長

コロナの影響がこんなところにも出てきているのかなと思うんですけどもね。

○米田委員

そうなんです。

○井上教育支援担当課長

ちょっと今年も受講生が少ないんですよ。で、定数の半分ぐらいしか来てない状況です。年度の今の1月、2月のデータですから、3年生が卒業したので、確かに3年生はやめちゃうかなと思っているんですけども、少ないというので、今経営してる塾の事業者、決してもうかっているわけじゃない状況みたいです。広告塔的にやっている部分もあるし、損はしないようにはやりますとは言ってますけれども、その会場を増やすには生徒がもうちょっと集まらないと、会場を増やして生徒が散らばるだけやったら、余計に経営的にしんどくなる。

○米田委員

増やす方法というのは、何かアクションをかけているんですか。増やすに当たって。

○井上教育支援担当課長

子どもたちの。

○米田委員

うん。

○井上教育支援担当課長

はい。偶然ですけれども、この間よどマガ3月号には、こういう形で出ておりますし、新1年生、まだ小学校6年生、チラシをつくって6年生の段階でお渡しして、学習塾の選択肢の一つですよということと、あと、春休み、3月の後半ですけれども体験入塾というのを無料でやってますというのを、その事業者と相談させてもらって、事業者もただじゃないんで、その子たちはただで見てねというのをお願いしてたんですけれども、これは、一般的な普通の塾でもやっていることかも分らんのですけれども、そういったところはいろいろ活用させてもらっているんです。せっかくやっている事業ですし、決して大阪市がもうかる事業じゃないんですけれども、床を有効に使ってねと、民間事業者からしたら、テナント料を払わなくて済むんだから、ここを使っただけという事業なので、宣伝はしているつもりですけれども、なかなかですね。

○中道委員

今、小学校6年生の子が、ちょうど説明のときに多分来られてて、ヨドジュクの話をして帰っていったんですけれど、やっぱり遠いから無理やねというの、ただそれだけなんです。もう遠いから、もし近かったら行ってみようかという話になるんですけれど、取りあえず、取っかかりが遠いので、もう何かそこなんです。入れないというか、行ってみようという気にならないというか。

○井上教育支援担当課長

ここで聞いていいですか。

○中道委員

はい。

○井上教育支援担当課長

学校はどこですか。

○中道委員

三国中学校。

○米田委員

新高やね。

○中道委員

新高なんです。住んでいるのが。

○井上教育支援担当課長

そうなんですか。

○中道委員

はい。

○井上教育支援担当課長

東三国は子どもは多いですね。

○中道委員

ちょっとね。

○井上教育支援担当課長

それか、十三かな。

○中道委員

三国中学校だけでも遠いんです。うちは遠いんですけど、端から端なんで。

○井上教育支援担当課長

そうですね。

○中道委員

はい。ちょっと神崎川寄りなんで。そこですかね、と思うんですよね。はい。近か

ったら増えるかなと思う。

○井上教育支援担当課長

今、通ってもらおう塾生を増やすということが一番なんですよね。床をつくることは多分可能です。学校さんに協力してもらって、何とか貸してくださいと。で、多少の工事要りますし、オートロックとかもつけなあかんのでお金もかかるんですけども、何とかお願いすることができるんだと思うんですけど、床をつくりました、教室は開きましたけど、結局子どもが来えへんという実績を1回つくってしまうと、事業者が逃げるんですよ。淀川区は塾生が少ないねとなったら、淀川は辞める、24区どこでもやってる事業なんですよね。事業者も言うたらおいしい区を取りにくるんで、子どもたちが少ないという実績をちょっとつくりたくないのが難しいところなんですけれども。

○中道委員

これ、十三と美津島と東三国の辺りは、割と児童とか生徒さんは多いんですか。その住んでる地区は。三国は結構多いと思うんです、そういうところに。

○井上教育支援担当課長

大体、偶然かもしれませんが今年の1月の登録でいうと、十三が17名、美津島が16名、東三国が17名なんで、大体どこも偶然ですけども、平均的に通ってもらって通っているというところ。

○中道委員

そこに住む地域の児童数。どう言ったらいいのかな、通っているというか。

○井上教育支援担当課長

地域でいうと、東三国が一番多いかな。そこ3校でいくと。

○中道委員

三国中学は多分一番多いのかな。三国中学校の生徒数は多いんですけど、あの辺、多いということは、やっぱり行きやすい、それだけ何て言うのかな、キャパ、人数が

多いと思うので、その辺に場所があればいい。分からないけども。

○井上教育支援担当課長

難しいですね。僕はそこ、市場調査できてないんですけども、確かに人口は多いんで、そこにつくれば来やすいかも分からないんですけども、そもそも塾が多いですよ。人口が多いところというのは。

○中道委員

みんな行ってるんですね。

○井上教育支援担当課長

ただ、僕全部調べてないんでね。一概に言えないかも分かりませんが。

○中道委員

はいはい、そうですね。確かに行ってます、うちは行ってないですけど。

○井上教育支援担当課長

淀川区で言うと、真ん中より東側は多いはずですよ。

○中道委員

はいはい。

○松尾政策企画課長代理

ありがとうございました。

ちょっと時間もあれなので、一旦ここで学校教育のほうはちょっと終わらせていただいて、次、子育て支援のほうに進みたいと思いますのでよろしくお願いします。

○武田保健・子育て支援担当課長

淀川区役所、保健・子育て支援担当の武田です。よろしくお願いします。

私も座って説明をさせていただきます。

すみません、お手元の資料の13ページをまず御覧ください。具体的取組2-2-1ですけども、プレパパ・ママ等のファミリー子育て教室ということで、取組内容につきましては、今までも全市的に子ども青少年局プレパパ、ママの育児セミナーと

いうのをやっております、大変人気がある講座なんですけれども、こちらの内容をファミリーに参加対象者を拡大して、淀川区民限定で実施するというような事業の内容になっております。

具体的には、沐浴でありますとか、抱っこでありますとか、着替え体験等をしていただくことによって、子育てに参加するきっかけづくりをしていきたいということと、妊娠期からファミリーで育児をするイメージをつくって、産後の不安軽減につなげて虐待を未然に防ぐという内容でございます。

令和3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響がございまして、また、手指消毒とかいろいろやまして、感染予防対策を十分に講じた上で実施していくことを考えております。

今年度の実施状況ですけれども、本当はプレパパ・ママ以外に祖父母等も来ていただきたかったんですけれども、密を避けるということで、今年度につきましてはプレパパ・ママ限定ということでさせていただいております。非常に、こういう御時世ですので、ほかのところでいわゆるプレパパ・ママの教室がなかったというのがございまして、募集を始めるとすぐに埋まるぐらいに非常に人気の高い講座ということで、しっかりと事業のほうは実施できたのかなというふうに思っております。

令和3年度につきましても、ちょっと何があるかというところもありますけれども、コロナの感染状況をしっかりと見ていながら、柔軟に対応してまいりたいと思っております。

令和3年度の数値目標ですけれども、参加者、来ていただいた方全員に出産・育児のイメージをしっかりと持って帰っていただきたいというのがございますので、参加者アンケートで出産・育児のイメージがついたと回答したプレパパ、ママの割合が100%ということで設定をしております。

続きまして、14ページのほうを御覧ください。こちらのほうは、地域子育てサロン助産師巡回相談事業でございますけれども、内容といたしましては、区内18地域

の地域子育てサロンに保健師、栄養士等区役所職員が、前から巡回させていただいていたんですけれども、新たにというのは今年度からということなんですけれども、助産師のほうで巡回いたしまして、特に授乳相談とか産婦相談を充実させることによりまして、子育てサロンにも来ていただく方を増やすというような事業でございます。出産後の早い段階から、産婦の不安とか悩みを解消しまして、仲間づくりと育児力を高めるという内容です。こちらにつきましても、新型コロナウイルス感染症の影響がありまして、今年度につきましても、地域の子育てサロンの開催というのは多くの地域で中止をされたということもございまして、ちょっと内容といたしましては、子育てサロンで実施した件数は1件だけなんですけれども、そのほか、子ども・子育てプラザでありますとか、つどいの広場でありますとか、小さなお子さんとお母さんと一緒に来やすいところをお借りして実施しているというようなところでございます。令和3年度につきましても、同様に少し柔軟にしていきたいなと考えております。

令和3年度の数値目標ですけれども、こちらにつきましても、産後の相談をしていただいた方全員に、気持ちが落ち着いた状態でお帰りいただきたいなというふうに考えておりますので、助産師の相談業務において授乳相談などの産婦相談ができて不安が軽減したとお答えいただいた相談者の方の割合が100%ということで設定をしています。

説明は以上です。よろしく申し上げます。

○松尾政策企画課長代理

そうしましたら、意見のほうをいただきたいと思っておりますので申し上げます。

こちらのほうも、令和2年度からちょっと重点的に新規事業ということでやっておりましたが、先ほど説明がありましたように、コロナの感染の拡大の状況がありましたので、ちょっと事業のほうか思うようにはいけなかったと思うんですけれども、またちょっと3年度のほうも、本年度以上に頑張られてということで何か御意見ございませんでしょうか。

○米田委員

すみません、私も主任児童委員させていただいて、子育てサロンは新高の場合は、今回1年間、中止しました。で、3月からどうされますかという助産師さんに対して、保健師さんにもこの前ちょっとだけお話をさせてもらって、新高としては、委員長とも相談して、民生の会議でもお話ししたんですけれども、いきなり子育てサロンを再開したのは、なかなか難しいかなということは、私が発言させてもらって、そこでその助産師さんが来てくださったりとか、栄養士さんとかが来てくださるのであれば、年間を通してこの令和3年に当たっては、何月、何月、何月とって月の設定をして、そのときに助産師さん来てくれる月というのを設けて、子育てサロンじゃなくって、逆にそこに来てもらって交流を深めたりとか、場所づくりみたいな感じのことをしたらどうかなということは提案させてもらったんですけれども、まだ最終的には決まっていんですけど、一応、保健師さんにもそのことを先日お話ししに行ったんです。で、そうなれば協力はさせていただきますという話をして、3月に民生の会議があるので、そこでまた皆さんと一緒に話を協力してもらわないといけないので、しようかなと思ってるんです。

で、実際3月、4月以降にほかの地域が子育てサロンを再開するかどうかということも、まだ分かってないということだったので、そういう再開の仕方でもいいかなということを考えているんですけれども、逆にどう思われますか。

○森川保健副主幹

今年度は、子育てサロンが再開できないということで、当初、コロナも影響しておりまして、年内当初までゼロ回というところがあったんです。しかし、開催場所を子育てサロンだけということではなく、子ども・子育てプラザでありますとか、つどいの広場でありますとか、小さなお子さんがお母さんと一緒に来やすい場所に行かせていただいて実施させていただきました。助産師さんもこの事業にだけ従事してやっているのではなくて、御自身もお仕事を持ちながら、このサロンにも参加していただい

ているというところで、急に今月ないです、来月何月何日よと言われてもなかなか日程調整ができないところがありますので、計画があるのであれば、早いに日程調整をしていただいたほうがありがたいかなというふうに思います。今年度は、後半のほうに回数がたくさんになったというところで、ちょっとそこら辺は計画的にしまして、大体満遍なく1年間で回数を平均して実施していきたいなというふうに思っているところです。

○武田保健・子育て支援担当課長

とりあえず保健師さんのときとか栄養士さんのときという感じで、1回1回おしゃっていただいたらというふうに思っています。

○森川保健副主幹

おっしゃっていただいて、地域の担当の保健師の仕事なので、どんどん言っていただいたら、こちらのほうでできるだけして調整しますので、言っていただくのが私たちもすごいありがたい。

○米田委員

担当保健師のほうは、もう今回はアンケートとか出さない。でも個別に対応しますということをおっしゃっていたので。

○武田保健・子育て支援担当課長

大丈夫ですよ、本当に個別に皆様方と区のほうの都合を調整します。

○森川保健副主幹

それが本当、私たちもありがたいので。

○武田保健・子育て支援担当課長

結構引きこもっている方が、いっぱいいらっしゃるから、コロナのこともあるので、ちょっと換気とか消毒とかをしながら、その人数も制限するような方法は考えないといけないと思うんですけども、これはやりたいと思っています。

○松尾政策企画課長代理

ありがとうございました。ほか何か御意見ございませんでしょうか。

どちらの目標も、一応皆さんに安心して帰っていただきたいということを念頭に置いて事業するので、一応100%ということで設定をされているんですが、そちらのほう何か御意見ございますか。

○中道委員

コロナなので、どちらも実施しにくい事業なんですけど、令和3年度も例えば本年度と同じような感じだったら、これはどういうふうに予算が浮いてきて、その予算がまた違う方向に何か使えたりするんですかね。これ自体が実施、はい。

○武田保健・子育て支援担当課長

多分、今年度についても、緊急事態宣言が発出された時期があって、外出も自粛という時期もあったんですけれども、プレパパ・ママの教室についても、うまくその時期を除きまして、年4回、土曜日、日曜日に実施するんですけれども、場所もちょっと同じところばかりではできないので、区民センターとか東三国のほうと2カ所設定して、2回ずつやってもらいました。今年度も緊急事態宣言はしんどいと思うので、そこを避けながら日程調整も委託なので、事業者、助産師のほうと調整しながらやっていきたいなと思ってまして、本当にとっても人気があって、来れてよかったですと言っていたので、しっかり回数はやりたいなというふうに思っています。

○松尾政策企画課長代理

じゃあ特に今年度も予算を余らせたみたいな感じではないんですね。

○武田保健・子育て支援担当課長

プレパパ・ママの予算は余っていないんですけれども、助産師の子育てサロンの巡回のほうは、会場のほうがなかなか初めの時期にちょっと確保できなかったのも、そちらはちょっと余っています。もともと18か所だったんですけれども、大体14ぐらいはいけるとお思いますので、できるだけいろんな場所をお借りしながら、お母様方とお話ができればと思います。

○松尾政策企画課長代理

そんな感じでよろしいですか。

○中道委員

1個だけ聞いていいですか。

マスクって、小さい子供さんもしているんですか。

○森川保健副主幹

小さい子供さんですか。

○中道委員

マスクして。

○森川保健副主幹

乳児はしてないです。

○中道委員

してないです。それは方針というか、マスクは小さい子はしないほうが良いという。

○森川保健副主幹

それはないんですけれども、ただ乳児はやはりちょっと分からないので、取ってしまいますので、そこは強制的にはしていません。ママたちは必ずしていただいています。

○中道委員

私はマスク、小さい子はしないほうが良いと思っていますよ。やっぱり表情が、読めないのですね。本当だったら、お母さんとかもつけないほうが表情が読めないから悪影響があるというのは聞いたことがあるので、子供に。そういうのをもしかしたらつけてたら、それはやめたほうが良いかなと思って、今お聞きしました。

○森川保健副主幹

御家庭の中ではお母さん、お子さんもつけてない方もおるのですが、やはり今、この新しい巡回でお配りしているところも、プラザとか、そういうふうな事態もやっぱ

り大人はマスク着用が原則になっておりますので、そこはお願いして。

○中道委員

大人は仕方ない。

○森川保健副主幹

そこは、はい。お願いして、スタッフのほうも着用していただいて。

○中道委員

子供は外して。

○森川保健副主幹

子供は外してますが、乳児はもちろんしてないんですけど、幼児によってはしてる子はしてます。それはお母さんが自主的に。

○中道委員

うち、小学校の子供がまだいてるんですけど、マスクをするのが当たり前になってしまって、マスクを外すのが不安になるみたいなんです、逆に。それってすごく怖いなと思って、順応しちゃうんで子供たちは、これが当たり前と思っているので、何かやっぱり表情が読めない。その影響が気になるなど。

○森川保健副主幹

そうですね。

○西澤委員

その場にね、間接的にこう管理をしておられるところを出してもらって、それはそれで参考になると思うんだけど、何かこうビデオとかね。

あるいは参加したお母さんとかね、お父さんの感想とかね、そんなんをちょっと書いてもらおうとか、何かどうもしない。でないところね、皆さん実際に映像を見たり、表情を見たりして、皆さんが納得なさっているとかいうその反応がなかなか人を介して、気分も表してますけれども、皆さんの子供が聞いたらなおかつ想像するような形で、何かそういう全てのことで言うわけには、1回ぐらいそういう場所でのビデオ撮

りとか何かをちょっと消化していただいて、それを見ながらそのときの雰囲気では僕は知ることができるかなというふうに思います。

○松尾政策企画課長代理

要は、実施しているところを画像に撮って、皆さんのアンケートの意見も書いたようなものをつくって宣伝するというか、広報にそういうのをつくってみてはどうかという御意見ですかね。

○西澤委員

そういうことですね。伝わらないんでね。一生懸命にやった。

○武田保健・子育て支援担当課長

ちょっと、検討します。

○松尾政策企画課長代理

ほか何か、ございませんでしょうか。

○川合委員

これって、民生でやってはるやつとは全く別。

○松尾政策企画課長代理

はい。

○川合委員

民生委員さんが地域でやってはるやつとは全部別ですか、これは。

○松尾政策企画課長代理

これは市のこちらの区の事業になりますので、はい。

○川合委員

区の事業としてやってはるんですね。

○武田保健・子育て支援担当課長

地域でやっていただいている子育てサロンに、区役所のほうから行かせてもらうという事業です。

○川合委員

こともあるっていうことね。

○森川保健副主幹

はいはい、はい。

○松尾政策企画課長代理

子育て、地域の子育て、皆さんがやっていただいているところに、区の事業として参加をするという。

ほか何か、もう一つぐらいいけそうですが何か。

ございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。

そうしたら、一応意見も出そろったというところで、一旦ちょっと3分ほど早いんですけど、ちょっと休憩に入りたいと思いますので。